様式３　　平成２９年度　学校関係者評価書

学校名	宇陀市立菟田野中学校
評価者名	馬場多佳子（学校評議員）、森本和加子（学校評議員）　【小泉和仁様は、平成３０年２月ご逝去されました】
実施日	平成30年3月9日

大項目	中項目	達成状況・取組状況について		取組の適切さについて	改善方策について
Ⅰ教育活動に関するもの	教育目標・教育課程・学校評価	B	①学習指導について ・学力向上研修を通じて、先生方の意識がかなり高まっていることを期待する。 ・家庭学習においては課題が残る。今後の取り組みに期待する。　・小中連携の積極的な必要を感じる。 ③人権教育について ・地域教材等にも取り組んでいると聞いたが、新たな展開として期待する。 ・重点教材の確認・定着をして欲しい。 ④生徒指導について ・制服登校が定着しつつある。 ・生徒の様子については、教師と生徒の感覚に乖離が見られる。　・徐々にではあるが規律ある生活を取り戻している。 ⑥特別支援教育について ・「保護者会」等での連携が効果的なように思う。 ・職員全員での共通認識がより求められる。 ・生徒個々に応じた指導をしていただいている。	②道徳　特別活動について ・道徳の教科化に向け積極的対策を進めて欲しい。 ・人権学習と道徳の授業を通じて子どもの心を耕す指導を進めて欲しい。　④生徒指導について ・ルール等、基準の明確化は必要である。菟田野中学校の良い面と言うだけでは、対応できない時代になってきている。 ⑤進路指導・キャリア教育について ・生徒の意識が高まっている。 ・三年間、系統づけた指導を進めていただきたい。	①学習指導について ・生徒の自己肯定感を高める授業づくりを是非、進めて欲しい。 ・学習規律については、今後も粘り強く取り組んで欲しい。 ・補習などの工夫をしていただいている。意識の変化がうかがえる。 ・家庭学習の重要性を伝え、学習の仕方を具体的に教えてあげて欲しい。 ③人権教育について ・是非、今の現状を見据えた取組を進めていただきたい。 ④生徒指導について ・ルール・基準の明確さ、例外を極力少なくしていくことで生徒に公平感が生まれる。そのためにも先生方一人一人が自覚して取り組んで欲しい。 ⑥特別支援教育について ・さらに生徒の実態を把握し、共通理解のもと保護者との連携を大切にした取組をお願いしたい。
	学習指導［教科・総合］	B			
	道徳　特別活動	B			
	人権教育	B			
	食育	B			
	生徒指導	B			
	進路指導・キャリア教育	A			
	特別支援教育	B			
Ⅱ学校経営に関するもの	組織運営	B	①組織運営について ・管理職がリーダーシップを発揮し運営を進めいるようなので安心した。 ・若手を積極的に登用することは今後の事も考え、大切なことである。しっかりと個々の能力が発揮できるよう育てていただきたい。 ②研究研修について ・学力向上推進校の指定を受け、研修をすすめていることは良いことである。 ・昨年度より教科授業研究が複数教科で実施されたことは良いことである。 ③保護者・地域との連携について ・学校からのメール等は非常に活用されているようだ。 ・学校ホームページも充実しているように思う。 ④教育環境整備について ・大規模改修を機にさらに教育環境を整え、生徒が安心して落ち着いて学ぶ環境整備を心がけて欲しい。	①安全管理について　・危機管理に気をとめ防災システムを設置できたことはよかったのではないかと思う。　②保健管理について　・養護教諭と学級担任の連携をさらに密にできるよう心がけていただきたい。 ③その他 ・生徒たちは本当に挨拶をよくするようになった。気持ちが良い。 ・全体的に地域での評判は良いと聞いている。	①組織運営について ・各自の能力が発揮され役割が果たせるような組織作りに努めて欲しい。　・メンタルヘルスチェックを行い、職員室が気軽に話せる本来の場であることをになるようにして欲しい。 ②研究研修について ・教員の授業力向上と家庭学習に重点を置き研修を進めていただきたい。また、義務教育９年間を見通した小中連携の研究も来年度は進めて欲しい。 ③保護者・地域との連携について ・PTA活動が一部の活動とならないように注意して欲しい。 ・細かい情報が確実に保護者のもとに届くようにして欲しい。 ④教育環境整備 ・先生方が一生懸命、動いてくれている。粘り強く取り組みを進めて欲しい。
	研究・研修	A			
	安全管理	B			
	保健管理	A			
	保護者・地域との連携	A			
	教育環境整備	A			
	情報管理	B			

【その他学校に対する意見】

・特になし。

様式１　　平成２９年度　宇陀市立　菟田野中学校　学校自己評価書

教育目標	「自らの成長を実感できる学校」～生徒の人間力向上～
運営方針	教職員を適材適所に配置し、組織的に学校運営・学級経営を行うとともに、保護者や地域とともに学校を活性化させる。
前年度の成果と課題	【課題】職員の世代交代【成果】学校文化の継承と発展
本年度 重点 目標	・職員研修（学力向上、授業改善、家庭学習の充実・・全国学力学習状況調査をうけ、本校の強みと弱みを点検し全教科で指導方法の改善に向けて取組を行う）

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目・指標	取組と成果	生徒アンケート	生徒評価	保護者アンケート	保護者評価	教職員アンケート	教職員評価	小項目の評価	中項目の評価	評価の観点・理由	課題・改善方策
Ⅰ 教育活動に関するもの	(1)教育目標 教育課程 学校評価	① 教育目標の設定					教育目標を知っている。	3↑	教育目標を知っている。	5	B	B	・学校目標を周知することができたか。	・保護者においては、少しづつではあるが認知度が上昇している。今後も粘り強くアピールしていきたい。（具体的には、学校HP・学校便り等々）校内においては、学年、学級目標にも反映している。
		② 教育計画の作成												
		③ 教育課程の編成												
		④ 教育活動の評価												
	(2)学習指導 ［教科・総合］	① 学習指導計画の立案	生徒の実態に沿った目標の設定と新指導要領に基づくシラバスの作成に取り組む。	シラバスを作成する。			シラバス（学習の仕方、評価の仕方など）を活用しているか。	2			C	B	・シラバスを十分活用できているか。 ・授業研究や研修で学んだことを教員一人一人が日頃の授業で改善が図られているか。 ・研修で得たことが生徒や保護者にも伝わっているか。 ・評価に関しては、説明責任が果たせているか。	・学習内容定着を図り、家庭学習の習慣化を生徒に促す。 ・できた達成感、できそうな見通しを立てた授業づくりを進め自己肯定感を高めた授業づくりを徹底する。 ・授業のＵＤ化を全教科で「わかりやすい」授業の徹底を図る（難しいことを易しく（優し））。 ・学習規律の強化を徹底する。 ・小中連携を深め、生徒の学習上の課題を共有化する。 ・生徒、保護者の評価と教職員の評価に差異が出ている。教職員の評価が低いのは、まだまだできることを示していると理解している。　　・職員のアンケートでの評価が下がっているのは、気にかかるところであるが、教員一人一人の目標値が上がっているからではないかと分析する。学力向上という点においてはまだまだ伸び代があると思う。
		② 学習内容の精選												
		③ 指導方法の工夫改善	学習規律を整える。	学習に向かう態度を整える。	教科書等持って帰らなければならない者は、毎日持って帰っていますか。	5↑			授業開始時には、学習に臨む準備や態度を整わせてから授業を行っている。	5	A			
					チャイム着席はできていますか。	4								
				「聞くところ」「書くところ」の指示を徹底する。	授業中、先生が説明しているときは、私語なく集中していますか。	4			「聞くところ」などの指示を明確にし、生徒の行動を確認してから次の指示を与えている。	4↓				
			わかりやすい授業を行う。	できるだけ具体物を使って授業を行う。	授業はわかりやすいですか。	4↑	授業がわかりやすいと言っていますか。	3△↑	具体物や資料などを使って授業している。	5↑	A			
				授業研究をする。					授業では、できるだけポイントを整理して指導するようにしている。	4↓				
									自分にしかできないことや一工夫を継続的に行っている。	4↓				
				家庭学習をさせる工夫を行う。	家庭での学習をしていますか。	3↑	子供は家庭学習をしていると思う。	2↓	家庭学習では、生徒が取り組みやすい提示や具体的な指示をしている。	4				
		④ 評価	生徒の学習状況を的確に評価する。	評価基準を明確にして評価する。	適切に学力や努力が評価されていると感じますか。	4↑	子供の学力や努力が適切に評価されていますか。	4↑			B			
	(3)道徳□ 特別活動	① 指導計画の立案										B	・学校行事の内容を点検・改善をすすめているか。 ・部活動は、生徒の学校教育活動上大変意義深いものととらえているか。	・行事のマンネリ化をなくし、菟田野がめざしてきたことの確認をすすめ、生徒の自主性・主体性を高めていく取組を進めていかなければならない。 ・生徒数が減少する中で、部活動の存続が難しくなっているのが現実である。また、体育部を中心として団体種目ばかりなので部活動に入らない生徒が増えている。
		② 道徳の時間の充実												
		③ 学級活動・学級経営	生徒の自主的な活動を進める。	生徒の自主的・主体的活動を生かすような工夫を行っている。	学級の一員として、意見を述べたり・行動したりしていますか。	3○↑			学級指導では生徒の自主的・主体的活動を生かすような工夫を行っている。	4	B			
		④ 学校行事	目的を明確に表し、安全を第一として活動を進める。	行事で生徒が自主的・主体的な活動になるように工夫している。	学校行事に積極的に参加しましたか。	5↑	子供は学校行事に積極的に参加している。	4	学校行事の内容等の改善を行っている。	4↑	B			
		⑤ 児童・生徒会活動の活性化	生徒の自主的な活動を進める。	生徒が自主的・主体的な活動になるように工夫している。	生徒会、福祉委員会等で積極的に活動しましたか。（委員への協力ができましたか。）	4			生徒が自主的・主体的な活動になるように工夫している。	4	A			
		⑥ クラブ・部活動の活性化	部活動を通じて、人間力向上をめざす。	生徒が意欲を持って楽しく活動が行われている。	部活動は楽しいですか。	5	子供は部活動を楽しんでいる	5	生徒が意欲を持って活動するように取り組んでいる。	4	A			
					部活動には意欲を持って取り組めましたか。	5	子供は積極的に部活動に参加している。	5						
	(4)人権教育	① 人権教育指導計画の立案	本校の人権教育における課題を明確にし、指導計画を立てている。	人権教育指導計画を作成する。					人権教育指導計画は本校の実態をふまえたものになっている。	3○↓	B	B	・教育課題を明確にし計画的に指導をすすめているか。 ・重点目標に取り組むための指導教材を人権教育部として提供することが出来たか。 ・研究授業を通じて指導者としての力量を高めることが出来たか。	・研修会議を開き、指導者が互いに力量を高めたり連携できるような仕組みを構築することが大切である。 ・校外での研修会や研究会の情報を校内にも伝えていく。 ・重点目標についての共通理解を深める。
		② 学習内容の精選	重点指導教材を決め、計画的に取り組んでいる。	重点指導教材をきめ、計画的に実践している。					重点指導教材をきめ、計画的に実践した。	3↓	B			
		③ 指導方法の工夫改善	生徒の実態にあった題材の選択や心情に訴えかける授業づくりができている。	生徒の実態にあった題材を選択し、工夫した授業を心がける。	あなたは学級の一人として協力し、また仲間からも大切にされてますか。	4	学校は、一人ひとりを大切にする教育に重点をおいていると思いますか。	4↑	人権学習の内容・授業の様子などを教師間で交流しながら進めている。	4↓	B			
									人権教育公開授業研究は授業改善に役立った	3↓	B			
	(5)食育	① 食育の全体計画の立案										B	・食物アレルギー等について研修ができているか ・養護教諭と学級担任との間での連携ができているか	給食担当と学級担任との連携をさらに進める。・食物アレルギーについては、研修を開いたが更に理解を深めることが必要である。
		② 学習内容の精選												
		③ 指導方法の工夫改善			給食当番の仕事を果たしましたか。	5					A			
					給食を残さず食べていますか。	5↑	子どもは好き嫌いをしないで食事をしていますか。	4			B			
	(6)生徒指導	① 組織的な生徒指導	全教職員が統一した指導・指示を行う。	生徒指導部を中心にしながら、組織的な指導を行う。	あいさつは出来ていますか。	5	学校の決まりを知っていますか。	4	学級・学年間で統一した生徒指導に心がけた。	4	A	B	・不公平感を無くし、当たり前のことを当たり前のこととして取り組むことができているか。具体的には、チャイム行動がとれているか、制服での登下校ができているか。校内での約束を守れているか。等である。 ・「朝読の時間の活用」については、その目的を理解し有効に活用されているか。 ・携帯・インターネットによるトラブルを防止するため利用上の注意に関する講演会を実施しているか。 （保護者・生徒対象）	・全教職員が共通理解のもと誰に対しても同じ指導をしていく。そのためにも、ルールや基準の明確化し例外がないような学校規律が必要である。 ・１日の始まりとして、「朝読」を更に大切にする。 ・学校生活の中で生徒とのコミュニケーションを大切にし生徒との人間関係を築きあげていくことに努める。 ・学年だけの教師の連携ではなく全教職員がチームとして機能できるよう生活指導、相談活動を徹底していきたい。 ・携帯・インターネット講演会を全校生徒を対象として実施した、保護者に対しては、新入生保護者会で実施した。
					制服をきちんと着用していますか。	5	学校の決まりを守らせようとしていますか。	4						
					朝読の時間を有効活用していますか	5↑	子供は学校の決まりや交通ルールを守っている。	4	生徒が朝読の時間を有効活用できるように支援している	4				
		② 問題行動の指導	問題行動に関して迅速な対応を行う。	「学校経営案」の生徒指導対応マニュアルに従って取り組みを行う。					問題行動に対して、迅速な対応ができた。	3○↓	B			
		③ 教育相談・児童生徒理解	生徒との関わりを深める。	生徒の様子に配意するとともに、生徒の声に耳を傾け、思いや願いを的確につかむ。	先生は生徒の様子をよく知っていると感じますか。	4↑			休み時間や放課後など、生徒と話すことを大切にしている。	4↓	A			
			不登校生徒をなくす。	不登校生徒の解消に向けて取り組みを行う。							B			
		④ 家庭との連携	生徒の生活の様子や変化などを的確に家庭に伝える。	電話連絡より家庭訪問を大切にする。			子どもの生活等について、学校に気軽に相談できる。	4↑			B			
		⑤ 関係機関との連携	関係機関と連絡を密にして、早期対処・未然防止を図る。	関係機関、4中合同会議を定期的に開く。							B			
	(7)進路指導 キャリア教育	① 組織的な進路指導										A	・夢の実現に向けた取組を進めているか。 ・進路に向けた指導を全ての学年で指導を進めているか。（三年生は、特に進路に向けて二者懇談を開き生徒の考えの聞き取りを進め適切な進路指導が進むよう努めている。）	・三年間の系統づけた進路指導にまでは至っていない。それぞれの学年において、発達段階に応じた取組を進めていきたい。
		② 勤労観・職業観に関する指導	将来に繋がるような勤労観、職業観を育てる。	『夢』をもつこと、追うこと、実現することの意味を考える。	（2年）職場体験学習の内容は充実していましたか。	5					A			
		③ 指導方法の工夫改善												
		④ 進路相談	出口指導に終わらず次のステージでの姿を想像し親身に相談活動を行う。	生徒の様子に配意するとともに、生徒の声に耳を傾け、思いや願いを的確につかむ。	（3年）自分の進路や将来について、先生と充分に話し合うことができましたか。	4↑					B			
		⑤ 家庭との連携	保護者と子どもの意見を調整する。	生徒の様子に配意するとともに、生徒や保護者の声に耳を傾け、思いや願いを的確につかむ。			子どもの生活等（進路を含む）の相談では、教職員は丁寧に対応しましたか。	4			A			
		⑥ 関係機関等との連携												
	(8)特別支援教育	① 組織的な特別支援教育	特別支援学級生徒の特性を教職員全員が理解し、その特性を踏まえた指導を行う。	特別支援学級生徒の特性を理解・把握する。					特別支援が必要な生徒について共通理解ができている。	4↓	B	B	・職員会議等を通して、教職員が共通理解し、支援学級、交流学級の担任、支援員ともに連携した指導を行うことができたか。 ・定期的な保護者会を開き、保護者との連絡を密にすることができたか。（全教職員参加を原則とする） ・支援が必要な生徒の実態に応じて各教科の授業を工夫する事ができたか。	・支援が必要な生徒について<u>今後も教職員が共通理解を深め、保護者ともに連携した指導を進めていくことが必要である</u>。 ・特別支援が必要な生徒の実態に応じて教科の授業にユニバーサルデザインを更に取り入れてゆく。 ・綿密な生徒個別計画を立て、生徒や保護者の思いや願いを生かした指導を進めていく。
		② 個別の指導計画の策定	個別の指導指導計画を策定する	個別の指導計画を策定する							B			
		③ 個別の教育支援計画の策定	個別の教育支援計画を策定する	個別の支援計画を策定する							B			
		④ 指導方法の工夫改善	授業の焦点化・簡素化・明確化をはかる	個々の生徒の実態に応じた指導の工夫を行う							A			
		⑤ 家庭との連携	家庭との連携を深める	定期的に保護者会を行うとともに、日々の相互連絡を密にする。							A			
		⑥ 関係機関との連携	関係機関と連携する	関係機関と連携する							A			

様式２　　平成２９年度　学校自己評価項目（学校経営）

学校名【菟田野中学校】

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目・指標	取組と成果	生徒アンケート	生徒評価	保護者アンケート	保護者評価	教職員アンケート	教職員評価	小項目の評価	中項目の評価	評価の観点・理由	課題・改善方策
Ⅱ学校経営に関するもの	(1)組織運営	①　校長のリーダーシップ	リーダーシップを発揮している。	目標や方針がぶれずに運営が進める。					校長は、リーダーシップを発揮し組織運営を進めている	5	A	B	・教職員が個々の能力を発揮し、職場の人間関係を円滑に進める進めることができたか ・ライフ、ワークバランスを整える。 ・組織として動くために、個々の役割が理解され機動しているか。	・若手の教職員が増えている中で、一人一人がもつ状況を捉え、力を発揮できる環境を整える。 ・さらに気軽に話し合える職場環境を整える。 ・働き方改革を受け教職員のストレスチェックを積極的に進める。 ・校務をさらに明確にし、それぞれの仕事の内容を分かりやすくし実際に行動しやすいように校務分掌の見直しを進めていく。また、仕事が一極集中になっていないかを点検する。
		②　学校経営目標・方針	グランドデザインを作成する。	経営方針を明らかにし取組を進める。					グランドデザインは分かりやすい。	5	A			
		③　教職員の適正配置と運営への参加意識	適材適所に教職員を配置している。	若手教員を積極的に登用する（主任等）					校務分掌では自分の役割を果たしている。	4	B			
		④　校務分掌等の連携												
		⑤　会議の運営												
		⑥　会議の結果												
		⑦　職場の人間関係	職員室で教科や生徒の事について課題を出し合ったり悩んでいることを気軽に話ができるか。	気軽に話が出来る空間作りに努める。					日々の教育活動における課題や悩みについて、気軽に話し合えますか。	3↓	C			
	(2)研究・研修	①　研修の組織･計画･実施	校内研修が計画的・効果的に行われている。	校内研修を計画的・効果的に行う。								A	・学力向上研修と研究授業を年間４回以上持つことができたか。また、教員の意識の変化が見ることができたか。 ・人権教育授業公開も行ったが、肯定的に回答した割合はが約６割にとどまった。	・（学力学習状況調査等から）国語、数学、生活実態調査から見えてきた（強みと弱み）を分析し、全ての教科、領域で言語活動の取組（読む力。書く力。話す力。）を育成していく。 ・授業の変化（授業のＵＤ化、ＩＴＣ教材の利用） ・家庭学習の定着（時間の設定と、宿題の内容） ・授業規律の徹底（チャイム着席、チャイムチョークの実践）
		②　校内研修	校内研修は教職員の資質を高めるため効果的に行われている。	校内研修は教職員の資質を高めるため効果的に行う。					学力向上研修で学んだことを生かして授業改善を行った	5	A			
									生徒の実態に応じた教材を工夫している。	4	A			
		③　授業研究	授業研究は教職員の授業力を向上させるため効果的に行われている。	授業研究は教職員の授業力を向上させるため効果的に行う。					人権教育授業研究は役だった。	3↓	B			
		④　校外の研修への参加												
		⑤　研修成果の普及	うだプランへの参加 県学力向上推進事業への参加	教育論文作成 学力向上フォーラムでの発表							A			
	(3)安全管理	①　危機管理体制の整備										B	・緊急地震速報を利用したシェクアウト訓練を実施することができたか。 ・生徒、保護者向けの携帯スマホ講習会を実施することができたか。 ・関係機関と密に連携をとることができたか。	・様々な場面を想定した訓練が今後必要と考える。 ・携帯、スマホに関しては、保護者の意識は少し向上しているように感じるがさらに意識を高める取り組みが必要である。　・関係機関との連携を、機動的にとることかできた
		②　学校防災計画の立案	防災計画を作成する	年間２回訓練を実施する							B			
		③　安全指導の工夫改善												
		④　家庭との連携	携帯、スマホの有効利用について家庭に発信する	携帯、スマホ講習会を開催する。			子どもと携帯、スマートホンの使い方について家庭で話している	4			B			
		⑤　関係機関との連携	生徒指導、学校行事等に関わって適切に連携を深めている	警察、消防署、中央児童相談所、医療機関等との連携をすすめる。							A			
	(4)保健管理	①　学校保健計画の立案										A	・教育相談体制が整っているか。（生徒の思い、保護者の願いに寄り添った）取り組みであったか。 ・学級担任と養護教諭との連携がとれているか。 ・関係機関と密に連携をとることができた	・教育相談に関しては、年間２回相談週間を設けることができている。今後も継続をと考える。 ・健康観察・保健指導については、日々の連携が進んでいるように感じる。　・関係機関との連携を、機動的にとることかできた。
		②　心のケアや健康相談体制の整備	教育相談係とＳＣが連携を進め、相談体制を整えている。	年二回教育相談（学級担任）を実施している	心配事や悩みなどを気軽に打ち明けることができますか。	３↑	子どもの生活について、気軽に相談できる先生がいる。	４↑	生徒のＳＯＳサインに対して、適切に相談体制をとっていますか。	4	A			
		③　健康観察、健康管理能力の育成							日々の健康観察・保健指導を、養護教諭と協力して適切に行っていますか。	5↑	A			
		④　学校給食の衛生管理												
		⑤　関係機関との連携	学校行事等に関わり適切に連携を深めている。	菟田野保健センター・室生福祉保健交流センターとの連携をすすめる。	（２年）育児体験活動の内容は、良かったですか。	5					A			
	(5)保護者・地域との連携	①　学校情報の発信	学校情報を保護者や地域に積極的に発信している。	学校便りを毎月発行する。			学校便りや学年便りによって学校の様子がよくわかる。	４↑			A	A	・学校便り、メールの配信は効果的に利用されているか。 ・学校公開と授業参観について保護者や地域に周知できているか。 ・ＰＴＡ活動について、機動的に活動がなされているか。	・学校便り、メールの配信については約九割が肯定的回答をしている。メール未加入家庭の割合が大幅に減った。また、学校ＨＰも積極的に活用していきたい。 ・授業参観の回数については、昨年と同様肯定的回答をしている。 ・ＰＴＡ活動については、肯定的回答が約５割程度にとどまっている。しかし、本部役員の選出等において立候補をしていただくことが非常に増えている。ＰＴＡ活動は、全ての会員への参加、協力を粘り強く伝える。
				緊急メールを活用する。			行事等について学校からの配信メールが役立った。	5			A			
		②　学校（授業）公開	学校（授業）公開を適切に行う。	学校（授業）公開の回数や方法を保護者アンケートの結果により見直す。			授業参観の回数（５月、１１月、１月）は適切である。	4			A			
		③　家庭・地域との連携												
		④　ＰＴＡの活性化	PTA活動が学校に協力的であり、活発に行われている。	PTA活動が主体的な活動となるよう支援する。			PTA活動に積極的に参加している。	３△			B			
		⑤　校種間連携												
		⑥　学校評議員の活用	学校評議員会を定期的に開催する。	学校評議員会を年３回開催する。							B			
		⑦　学校安全会議の活用												
	(6)教育環境整備	①　教育環境の整備	教育環境が適切に整備されている。	生徒が落ち着いて学習できるよう日々環境整備を行う。	掃除時間は時間いっぱい熱心にしている。	４↑			清掃（給食当番）時は率先して掃除活動を行っている。	5	A	A	・教職員の教育環境整備意識・率先垂範意識に向上が見られたか。 ・教材教具の活用についての授業が行われたか。 ・定期的に備品点検及び整備を行っているか。	・「環境が人を作る」という信念の下、今後とも教職員が率先垂範するとともに環境整備に努力を続ける。本年度、大規模改修をしていただいた。生徒たちに感謝する心が芽生えた。また、同時に自分たちの学校を大切にする気持ちも育てて行きたいと思う。 ・教職員の意識の向上・行動実践が、生徒の行動にもつながっているように感じる。 ・教材教具の活用については、約９割が肯定的な回答をしている。 ・備品点検整備については、肯定的回答をした者が向上した。
									毎日生徒が下校した後や退室した後、教室環境を点検整備している。	4				
					学校ではゴミをしないように心がけている。	４↑			修理が必要なものを見かけたときには、自ら修理したり管理職に告げたりしている。	4				
		②　施設設備の有効利用												
		③　教材教具の整備	教材教具を有効に活用している。	教材教具を有効に活用する。					教材備品を授業等で有効に活用している。	4	A			
			教材教具を常に整備する。	備品管理台帳に基づき点検管理を行う。					備品台帳に基づき教材備品等の点検整備を行った。	4	B			
		④　施設設備・教材教具の管理												
	(7)情報管理	①　公文書の収受・保管	公文書が適切に整備されている。	事務職員が点検を行う。					公文書は案件が済みしだい、速やかに文書取扱者に戻している。	4	B	B	・学校からの文書に責任を持っているか。 ・個人情報を管理、保護に努めているか。	・文書の回覧、保管、作成については当たり前のこととして進めていく必要がある。教員の世界は、日々の忙しさからともすれば見逃してしまう時がある。特に、学校からの発信文書等は徹底したい。 ・個人情報の管理においても徹底したい。
		②　公文書の作成	公文書が適切に作成されている。	管理職が点検を行う。					文書の作成については複数人で確認し、管理職の最終チェックを受けている。	4	B			
		③　個人情報の管理・保護	個人情報の管理を行っている。	個人情報の管理徹底を呼びかける。										
									個人情報の持ち出しはしていない。	5	A			
		④　情報の収集												